

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		-	-
		商店街（代表者）	・クリスマス、年末年始とお金の動く時期を控えているため、今後についてはやや良くなる。
		スーパー（店長）	・景気の良くない状態という大きな流れは変わらないが、販売量が右肩上がりにある傾向から、年末商戦に向けて少しは期待を持つことができる。
		スーパー（店長）	・今年は降雪が早く、防寒物を中心に販売動向が良いことから、今後も冬物が好調を維持する。
		コンビニ（オーナー）	・地元球団が日本一になれば、お祝いムードで客の財布のひもが緩み、景気も上向くことになる。
		家電量販店（店員）	・大型冷蔵庫の売行きが良くなってきているため、今後についても期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・中古車の不調に不安は残るが、11月から新型車の発売が続くため、現在よりも上向きに転じることが期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・11～12月と新型車が投入されるため、売上も伸びるとみられる。12月の賞与も前年並みに出ることが予定されている。
		高級レストラン（経営者）	・地震、台風、異常気象などの影響により、野菜などが高騰しており、飲食業としては利益が出しづらい状況にある。また、客の様子、会話などから、消費は伸びてこないとみられ、とにかく不景気感が募る一方である。ただ、年末に向かって、ある程度の消費が見込めるため、一時的に景気は良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・先行指標となる営業数値が上向いていることから、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・これから冬期を迎えて、客の乗車ニーズが高くなることが見込まれる。
		タクシー運転手	・今後、降雪期、年末年始を迎えることで、需要の伸びが期待できる。
		通信会社（企画担当）	・冬商戦に向けて注目の大きな商材こそないものの、家族をキーに販売促進を図れそうのため、今後についてはやや良くなる。
		観光名所（従業員）	・北海道新幹線の開業効果は季節が一巡する来年の春までは続くと思われる。
		美容室（経営者）	・12月は忙しい時期であり、それに向けてのキャンペーンも始まるため、今後についてはやや良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・観光客が引き続き好調に推移しており、じわじわと個人消費や建築関連にも効果が生じてくることが期待できる。
		商店街（代表者）	・世界情勢は日本が考えている以上に変化しているが、客の反応からは現状のまま推移するとみられる。
		商店街（代表者）	・2～3か月先は正月という要因を除けば、近年、景気がやや悪い状態で推移している。また、売上が大きく増減するような要因も見当たらないため、特に景気が良くなる、あるいは悪くなることはない。
		商店街（代表者）	・これからの北海道は外国人観光客の消費に頼る時期となるが、前年までのような購買にはならないと見込まれるため、厳しい冬となりそうだ。現在の予約があまり伸びていないことも心配の種だ。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・日本人観光客は全く増えていないが、東南アジアからの外国人観光客が増えており、10月は前年比117%、前々年比110%と売上を伸ばしている。このことから、今後、天候の悪い季節を迎えるが、景気は変わらないまま推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末に向かって、売上は好調な数字を残すことができるとみているが、これは例年どおりのことであり、今年に限ったことではない。売上の厳しい現在の流れから、当分は景気のやや悪い状態で踏みとどまって推移することになる。
		百貨店（売場主任）	・主力となる婦人顧客を中心としたボリュームゾーンの回復待ちの状況にあるため、今後も変わらないまま推移する。大型催事も勝ち負けの差が大きく、動員の回復が待たれる。
		百貨店（担当者）	・変化の兆しが特段感じられないため、今後も変わらない。
	百貨店（販売促進担当）	・これから冬にかけて暖房費などが生活費を圧迫してくることになる。今のところ、客の収入が急に増えたり、臨時収入があったり、ボーナスがアップする見込みはないため、生活防衛意識が高まり、現状のまま推移する。	
	百貨店（役員）	・年末商戦と正月商戦を控えているため、今までよりはやや良くなる。	
	スーパー（店長）	・現在の節約志向が継続することになる。ただし、年末に向けて、客はお金を使う物、控える物など、購買に対するメリハリを付けることが見込まれる。	

スーパー（店長）	・景気が変動するような大きな要因が見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
スーパー（企画担当）	・秋の行楽催事、ハロウィーン、ボジョレーヌーヴォーなどの行催事ではそれなりに盛り上がるものの、それ以外の通常日は例年を下回る売上となることが多いなど、全体的な消費動向について先行きの読みにくい状況が続いている。
スーパー（役員）	・10月から最低賃金上がるものの、その一方で社会保険の加入対象が広がることから、全体的な収入増にはつながらないとみられる。消費が上向く環境にはないことから、現在の状況が今後も続く。
コンビニ（エリア担当）	・景気に変化を与えるような外部要因が何も見込まれないため、今後も変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・台風の影響で一次産業に影響が生じているため、景気が浮上するきっかけが見当たらない。
衣料品専門店（店長）	・来客数が増えてこないため、今後も変わらない。
家電量販店（経営者）	・年末需要が生じるとみられるが、あまり大きな期待はできない。
乗用車販売店（従業員）	・新型車効果が不透明なため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・これから冬を迎えることになるが、新型車種も特にないため、現在の販売状況を踏まえると、このまま変わらずに推移する。
自動車備品販売店（店長）	・来客数は変わらないが、低価格商材がよく動いているため、売上の伸びてこない状況が続いており、今後も変わらないまま推移する。
旅行代理店（従業員）	・公務員などの冬のボーナスは例年並みの支給が見込まれるため、消費の刺激となることを期待している。ただ、今年は冬の訪れが早いことから、冬物や暖房家電などの消費につながるものが想像できるため、当業界の景気は変わらない。
旅行代理店（従業員）	・生産農家も含めた農業関係事業者については、台風で被災した人のみならず、その周囲の人も自粛ムードに入ってきており、回復のめどが立たない。そのため、今後数か月は現在の状況が続く。
タクシー運転手	・これから年末の繁忙期を迎えるため、タクシー1台当たりの売上はやや良くなるとみているが、乗務員不足がますます深刻になっていることから、会社としての売上は前年並みかマイナスで推移する。
タクシー運転手	・この先の予約状況や問い合わせ件数がほぼ前年並みであり、特に増加する要因も見当たらないところから、変化のないまま推移する。
通信会社（社員）	・今後に向けての大きな変化はみられないため、景気は変わらない。ただ、総務省からのタスクフォースが厳しくなれば、景気が下向き可能性がある。
観光名所（職員）	・外国人観光客の増加で観光施設の来客数は増加傾向にあるが、根本的な景気回復に起因したのではなく、一過性のものに過ぎないため、今後も景気は変わらない。
美容室（経営者）	・客は将来に対して大きな期待も持っていないが、現状にあまり悲観もしていないといった雰囲気がある。そのため、消費も現状を維持しようという感覚が強く、今後については変わらない。
住宅販売会社（経営者）	・マイナス金利の効果は今後も続くと思われるが、その恩恵を受けるような客はすでに一巡しているため、効果は徐々に限定的になってくる。やはり、多くの客の所得が伸びていない以上、分譲マンションの需要が現在よりも拡大するとは考えられない。
商店街（代表者）	・商店街のそれぞれの店の話を聞くと、今年の4月ごろから売上が前年割れとなる月が多くなっている。こうした状況が現在も続いており、今後の年末商戦も期待できないという声が多いため、景気はやや悪くなる。
百貨店（営業販売担当）	・前年12月から1月にかけての2か月間はプレミアム付商品券が売上に貢献したが、今年はそうした予定もないため、マイナス要因となる。また、秋の台風の影響で一次産業の生産が減少しているため、関係者の消費が冷え込むとみられる。
スーパー（役員）	・最低賃金の引上げや人手不足の影響により、事業を縮小する取引先が増えており、景気が縮小していくことが懸念される。
コンビニ（エリア担当）	・どのカテゴリーでも、より単価の低い商材にシフトしているため、売上が確保できない。消費者心理として支出を減らすことが前提になっており、今後の景気はやや悪くなる。

	衣料品専門店（経営者）	・衣料関係の景気は今一つ悪く、ホテルでの展示会の売上も前年を下回った。また、秋物野菜の高値が続いており、これから冬を迎えるなかで、暖房、灯油、重油などの家計負担が増大してくるため、客の節約ムードが高まることになる。今後については、年末年始にかけてあまり期待できない。
	衣料品専門店（店長）	・気温が下がったものの、いまだに冬物の稼働が鈍い状況にある。このままバーゲン期まで商材がうまく稼働するとは思えない環境にあるため、今後についてはやや悪くなる。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・この業界は冬場に向かってプラス傾向となることが常識化しているが、今年に限ってはどうか分からない。急変が怖い年末だ。
	その他専門店〔造花〕（店長）	・物価の上昇と景気対策の不備により、今後についてはやや悪くなる。
	高級レストラン（スタッフ）	・今後への期待が持てない。想像を超えた気候の変動や先行きへの不安なども重なり、常連客も外食を楽しむ余裕がないようだ。
	高級レストラン（スタッフ）	・鉄道の不通がまだ復旧していないなど、まだまだ台風の影響から回復していないため、冬期間に入り客足が更に落ち込むことが懸念される。
	観光型ホテル（スタッフ）	・11月こそ、コンサートやスポーツ大会に伴う需要でプラス傾向にあるが、12月以降はイベントなどの目玉がないため、苦戦が見込まれる。
	旅行代理店（従業員）	・名古屋便の期間運休があるため、路線供給量が減少することになる。また、今年の冬は比較的穏やかな気候だったが、夏場の台風の印象が強いことから、今冬は荒天が増えるのではないかと懸念され、旅行需要が抑制されるのではないかと心配している。
	旅行代理店（従業員）	・当地と札幌を結ぶ特急の運行再開のめどがいまだに立っていないことで、今後も鉄道利用プランの申込のない状況が続く、その分がまるまる減少することになる。また、台風の被害を受けた人が多かったのか、その復旧に携わる人が多いのか、12月の先行数字は前年の6割とかなり厳しい数字となっている。
	パチンコ店（役員）	・アジア圏からの外国人観光客の数に変動はないようだが、前々年のような爆買いはなくなっているため、旅行業以外の今まで恩恵を受けていた業種の動向が気になりである。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・冬期間に入ると、運航が天候に左右されることもあり、今後の輸送量は減少することになる。
	× 商店街（代表者）	・オフシーズンになり、来客数の減少が見込まれる。
	× コンビニ（エリア担当）	・漁業関係の不調が続いている。さんまは今月に入り一時持ち直したが、いか、さけ、ますなどは厳しい状況が続いている。加工場に加えて、運送業者、燃料業者にも影響が及んできているため、年末商戦は厳しくなる。競合店の出店もあり、景気が良くなる兆しは見当たらない。
	× 観光型ホテル（役員）	・長引く円高で旅行会社の海外旅行客数が増加に転じており、国内客の予約減少につながり始めている。また、九州ふっこう割により、旅行需要が九州方面に集中しており、同じように航空路線利用者の入込が多い北海道への客足が戻っていない。さらに台風被害により損壊したインフラの復旧が完全ではないことで、旅行会社によるツアー設定も解除されている。これらのことから、今後については悪くなる。
	× タクシー運転手	・好転材料が見当たらないため、今後については悪くなる。
	× タクシー運転手	・タクシー業界は規制緩和以降、車両台数が増えたことで需給バランスが取れていない状況にあり、今のままではドライバーの生活も成り立たず、どのように変化するか分からない状況にある。
企業 動向 関連  (北海道)	-	-
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・台風被害の復旧工事の発注による底上げが見込まれる。ただ、顧客が人手不足を異口同音に訴えていることが気になりである。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・年末から年度末にかけて復旧工事の本格化が見込まれるため、今後についてはやや良くなる。
	食料品製造業（従業員）	・販売傾向が上向きの客先と下向きの客先があり、全体的にはこの先も変化はないまま推移する。
	食料品製造業（従業員）	・最低賃金の引上げに伴う人件費の上昇が、販売量の増加による利益増と相殺されるため、今後については変わらない。
	家具製造業（経営者）	・地域的に市民生活が安定しているものの、大手百貨店の撤退の影響などの不安要素もあるため、このまま景気が良くなるとは考えにくい。

	輸送業（支店長）	・今のところスポット需要の引き合いもあまりないため、現状並みでの推移が見込まれる。	
	通信業（営業担当）	・現状の景況感はやや良く、この先の案件数や規模などの営業面の指標をみても、現状と同様の案件数、規模、単価で推移することが見込まれる。	
	金融業（従業員）	・大型経済対策や台風被害の災害復旧工事が本格化し、台風被害の悪影響を相殺することになる。外国人観光客の消費単価の落ち込みから、観光関連に一服感が出てきているが、道内景気後退の水準には至っておらず、当面は現状程度で推移する。	
	広告代理店（従業員）	・10月は地元球団の効果などでスポット的に景気が上向くものの、それほど継続はしないと見込まれるため、今後も変わらない。	
	司法書士	・年末を迎えて景気が回復することを期待しているが、現在の社会情勢から判断して、今後も大きな変動はないまま推移する。	
	コピーサービス業（従業員）	・設備投資に慎重な客先の業績が特に悪いということもないため、これまでの経験から今の状況はしばらく変わらないことが見込まれる。	
	建設業（従業員）	・影を潜めた爆買いに象徴されるように、外国人観光客による観光産業への経済効果が低下しており、関連業界での建設投資が慎重になってきている。	
	輸送業（営業担当）	・この秋の農作物の収穫が大幅に減ることに加えて、砂糖やでんぷんなどの加工品も連動して減るとみられるため、今後の物流量が減少する恐れがある。	
	司法書士	・冬期に向かって建物の新增改築が一服状態となる。不動産の売買も少なくなり、仕事は減少することになる。	
	司法書士	・これから冬期に向かって寒さが厳しくなる季節であるが、円高により燃料やガソリンなどの価格が上昇してきている。また、台風災害などの影響により、食品、特に野菜の値段が上昇している。消費者の給与所得の伸び悩みもあり、今後の消費を控えることが見込まれるなど、景気が良くなる要素が少ない。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・2～3月の景気は今と変わらないとみているが、大型案件が少ないことから、今後については受注量や販売量が減り、やや悪くなる。	
	×	建設業（経営者）	・冬期を迎えるなか、官民、土木建築ともに新規受注がほとんど見込めないため、今後については悪くなる。
雇用 関連 (北海道)	-	-	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・アルバイト、パートの集まりが悪く、人材確保をしなければ業務に支障が生じる事業所が増えてきていることから、今後の雇用動向はやや良くなる。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今後、台風被害に伴う景気の落ち込みが多少改善されることになり、前年並みの雇用環境に戻ることが見込まれる。	
	職業安定所（職員）	・有効求人倍率が1.08倍と1年4か月連続で1.0倍超えの高水準が続いているため、今後についてもやや良くなる。	
	人材派遣会社（社員）	・年末年始商戦を見据えて、人材ニーズが更に高まる。しかしながら、各社のニーズに見合うスキルを持つ人材の確保が難しくなっていることから、業績への悪影響も見込まれる。一方で、若年者、中高年者が就職できずにいる現状も散見される。今般、行政機関から受託した、若年末就職者への就職支援事業にも多数の応募があった。景気とは関係なく、未就職の若年者、中高年者が多数存在することは事実であり、これらの労働者への対策も必要である。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・台風のダメージはあるものの、建設土木関連の下支えもあり、今後については多少良くなることを期待している。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数は増減を繰り返しながらも、例年並みの動きに収束してきている。以前のような急激な求人増を見込めるほどの要因は見当たらないが、人手不足の状況が継続しているため、求人数は高止まりで推移する。	
	職業安定所（職員）	・ここ数か月、新規求人数は前年を2～3％程度下回る小幅な減少で推移していたが、10月は増加に転じた。ただ、正社員求人よりもそれ以外の求人の増加幅が大きく、さらに職業間でのばらつきがみられることから、このまま増加が続くのか、一時的な状況なのかまでは判断が付かない。	
	職業安定所（職員）	・求職者数の増加を上回る求人数の増加により、有効求人倍率が1.0倍を超えたことから、今後も引き続き高い水準で雇用状況が推移することになる。	
	職業安定所（職員）	・観光客の入込により表面的には活気があるが、観光業以外の産業や住民にはあまり波及効果がないようにみえるため、今後も景気は変わらない。	

	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・ 12月に学内で企業を招いての就職関連の行事を行う予定となっているが、企業の反応が非常に良いことから、採用意欲の高さがうかがえ、年内は現状のまま推移する。
	*	*
x	-	-